

指定管理者評価シート

事業名	さけ科学館管理費	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課(2536)
-----	----------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
開設時期	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日	延床面積	①579.2㎡ ②121.5㎡ ③220.61㎡
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市公園緑化協会		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境の「5つのK」を基に、以下の①～⑤に示す「管理運営の基本方針」を策定した。</p> <p>① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。</p> <p>② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。</p> <p>③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。</p> <p>④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。</p>	<p>お客様の意見・要望等や、実習・解説案内・博物館実習・職場体験等の依頼は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、可能な限り受け入れに努め、平等・公平性については適正に確保することができた。</p> <p>管理運営においては、関係法令等を厳守し、適正な利用環境を提供することができた。</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。			
A	B	C	D								
基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。											

⑤ 札幌の水辺環境のシンボルであるサケを守り育てる活動を通じて、水辺環境の保全とともに、市民の環境を大切に思う心をはぐくむ。

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。

- ・障がい者の利用機会の確保に努めた。
- ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。開館中やイベントの際はさかな館の部屋を授乳室として利用いただくよう調整した。
- ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。
- ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。
- ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。
- ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。
- ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。
- ・参加者が限られる実習等については、不公平感の排除に努め、人気の実習については、公正な抽選により参加者を決めた。
- ・イベントの際は、3密による新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限を行いつつ、全員が参加できるように行った。

さかなウォッチングやサーモンウォッチング等のイベントの際は、札幌を取り巻く水辺の生物の現状の普及啓発を積極的に行った。河川でのサケや淡水魚類調査の際にも積極的に市民に声を掛けて解説し、近隣住民と情報交換するなど、様々な場面での取組みを進めることができた。

研修・指導による全スタッフの教育により、平等・公平な利用機会を適正に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情発生時等の対応については、差別や特別扱いとにならないよう注意をし、適切な対応を心掛けた。広報さっぽろ・HP・SNS・イベントチラシや館内掲示等により、施設・イベント等の最新情報を広範囲に提供できるよう努めた。外国人向けの表記については、利用の動向を見ながら、必要性の高い表示を追加している。また、対話の際は、スマートフォン翻訳アプリ等を活用したほか、病気等の緊急時に備えて、多言語救急問診シートを常備し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの参加者人数が集まることが予想されるイベントについては、事前申込制や整理券を配布するなど、3密集を避け平等利用の方針どおり全員が参加できるような取組ができた。

平等利用に向け、スタッフへの教育や積極的な情報発信などについて適切に取り組んでいます。さらに、コロナ禍におけるイベント開催に関しても、感染対策を行いつつ柔軟に対応していることを評価します。

▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進

・HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、目的・目標を設定して環境活動に取り組んだ。

・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努めた結果、前年度比で、LPガスは85.3%、水道は93.9%、一般ごみ排出量は113.4%、電気使用量は105.2%、となった。

・「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の拠点施設として参加しており、今後も身近な水辺の生き物を通じて札幌の生物多様性保全への関心が高まるよう、取り組みを進めた。

・EMSの環境目標のひとつであるノー残業デーの超過勤務時間について、前年度実績を上回らないことを目標として取り組んだ。野外調査業務においては、天候・河川増水状況等を見ながらスケジュールを設定する必要があるため、業務に支障が出ない範囲内で取り組むように努力した。

・環境に関する自覚教育を4回実施した。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

・統括責任者、統括責任者代理を配置した。

・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。

・当初の研修計画に基づき、研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。4/12~14に、標津サーモン科学館において相互実務研修(1回/5年)を行った。

LPガスは意識をもって節約に取り組んだ結果、使用量が減少した。水道の使用量は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い入館者数が減少したため、使用量が減少した。一般ごみ排出量が増加した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として簡易な物品等の使い回しをやめた結果、増加したと考えられるが、今後も意識をもって削減に努める。電気使用量は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として換気のため常時換気扇を稼働させた結果、若干増加した。

今後もスタッフ全員で改善・削減への取り組みに努めていきたい。生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの連携事業「いきものつながりオンラインクイズラリー2021」に参加し、生物多様性の重要性について普及啓発をすることができた。

全スタッフで「水曜日はノー残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量削減に繋がることを意識して、対応可能な範囲で今後も取り組んでいく。

管理運営体制を整え、問題なく適正に業務を遂行できた。研修等は予定通り実施し、来館者への対応や電話問合せ、飼育管理に役立てることができた。また標津サーモン科学館との相互実務研修では、飼育や管理運営に関するお互いの情報を交換し、新しい技術や知見を得ることができた。

適正な施設運営や飼育魚の管理を行うことによるガス使用量等の増加はやむを得ないものと考えますが、改善できる部分はないか振り返りや分析を行い、今後もさらなる環境配慮への取り組みが行われることを期待します。

適切な組織運営がなされ、職員の新たな知識・スキルの取得に努めていること及び、周辺環境を踏まえた研修の参加等を評価します。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

- ・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。
- ・草刈り機・除雪機等の作業機械を使用する際は、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを適切に実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当協会全体で実施される安全大会は中止となったが、メールにて配布された安全大会資料をもとに、現場にて安全大会(4/8)を実施した。
- ・サケ科魚類に給餌する配合飼料を、標津サーモン科学館の実績踏まえて新しく導入した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、建築物法定点検、危険木処理、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。

さけ科学館スタッフの労働災害及び車両事故、来館者の事故発生はなかった。他公園を含めた業務災害の発生に対しては、当団体全体で共有し、迅速かつ適切に再発防止措置を講じることができた。朝礼では、業務で車両を使用する日及び交通安全週間をはじめ定期的に車両の運転について(通勤時も含む)注意喚起を行った。また、車両を使用する前についても口頭で注意喚起をするように努めた。今後も全スタッフで安全の確保に努め、利用者の被災、及び業務災害・事故を発生させないよう、気を引き締めて業務に当たる。サケ科魚類用に導入した新しい配合飼料は、魚類の色づきも良くなり、生体展示としてより良い効果つながった。

施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適切に実施した。

業務災害については再発防止を徹底し、利用者のみならずスタッフの安全確保にも十分に努めてください。よりよい展示に向けた検討について評価するとともに今後も進めてください。

適切に実施されていることを評価します。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(市民との協働、地域等の連携、運営協議会等の開催)

・さけ科学館ボランティアの会(登録者数10名)では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。
 ・民間の活動団体である「真駒内川水辺の楽校」「自然ウォッチングセンター」等の活動に積極的に協力した。
 ※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントがほぼ中止となったが、例年お互いに協力して実施している。
 ・市民や行政・大学の研究者・さけ科学館等の有志による「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の活動として、豊平川の野生サケを優先的に保全し、サケやその他魚類の生息環境の改善等を検討し、サケ遡上数が大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査、サケ稚魚降下調査等を共同で実施した。
 ・近年、道内で分布を広げている国内外来種のアズマヒキガエルは、令和元年には札幌市南区内での大量発生、繁殖が確認され、在来の両生類など地域の生態系に与える影響が懸念されており、早急な対応が求められることから、市民への外来種問題認知の促進活動に加え、市民団体「かंगाエル」・市環境共生担当課への情報提供、調査や防除などの面で協力した。
 ・豊平川に生息している特定外来生物ウチダザリガニの発生源を調べるため、北海道大学・市環境共生担当課・円山動物園と共同で分布域調査を実施した。

ボランティア活動を積極的にサポートし、飼育管理補助や水辺の生き物観察会等において活躍していただいた。
 市民フォーラムは、札幌ワイルドサーモンプロジェクトと共催で新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてZoomによるオンラインで開催した。
 ウチダザリガニ及びアズマヒキガエルは、地域の生態系に与える影響が大きいことから、今後も積極的に協力をし、普及啓発活動にも力を入れて実施していく。
 地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するように努める。

要求水準通りボランティアや関係機関との協働を行っていることに加え、多様な団体との連携や情報提供などを積極的かつ柔軟に行っていることを評価します。

開催回	協議・報告内容
運営協議会 3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、改善点について ・利用者の声について ・自主事業の実施状況について ・今後のイベントについて ・排水管等の調査について ・本館展示更新及び展示水槽の設置について ・動物園条例について ・サケ稚魚放流について
<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課 係長・担当職員 札幌市公園緑化協会事業推進課長・さけ科学館主任(マネージャー)・主任(サブマネージャー)	

運営協議会だけでなく、日頃から所管部署と連絡を密に取るようにした。
 北海道開発局、市環境共生担当課・市河川事業課や水産研究・教育機構水産資源研究所、札幌ワイルドサーモンプロジェクト等とも河川状況やサケ・水生生物の分布状況等の情報共有に努めた。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼資金管理については、指定管理業務や自主事業等、公園ごとに区分している。札幌市監査事務局による監査が行われたが、内部監査や経理事務担当者の随時確認により、指摘事項はなかった。
 ▼当協会の規定に基づき、現金や金券類、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士2名による外部監査を導入している。
 ▼現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、管理体制の強化及び不祥事防止の取組みを行っている。

札幌市の検査・監査には適切に対応できた。

不正行為や事故発生の未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。

不正経理等はなく問題は無い。

適切に実施されています。今後も、不正行為等を未然に防止するための取り組みを徹底し、適切な資金管理に努めてください。

▽ 要望・苦情対応

さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。
令和3年度の苦情は1件であった。

＜内容＞

6/29に、近くに住む女性が、6月27日17時ごろ、さけ科学館横の公園橋で、大きなカラスに遭遇した。大きな声を出して追い払うも向かってくるため恐ろしくなり、アイスアリーナの木やサイクリングロードへ逃げたが、カラスに追われ続けた。自転車で通りかかった男性に助けをもらい、15分ほどかかり通過することができた。報告した方がよいと思い、さけ科学館に電話した。

＜対応＞

これまで同じ場所を通りカラスに襲われたことはなく、当日は汚れものをレジ袋に入れて持っていたようだったので、カラスが執着したと考えられた。

レジ袋には食べ物が入っていると学習しているカラスは、食べ物が入ってなくても袋を襲うことや、女性や子供は怖がるので襲われやすいことを説明した。また、レジ袋は見えないようにすることや、傘を差して通り過ぎる方法などを伝え、了承していただいた。

＜結果＞

カラスの被害にあった場所は、真駒内公園であったため、真駒内公園管理事務所の担当者に状況を報告した。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）

▼ アンケートは、来館者及びイベント等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。

▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施した。

利用者から直接、感謝やおほめの言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの励みになった。苦情等望に関しては、管理区域外で起こった事案のため本来は真駒内公園の対応であったが、お客様の気持ちを察して、丁寧に対応することができた。要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会としてとらえ適切に対応する。

イベントアンケートでは満足度で高い評価が得られた。自由記述の意見・要望についても改善の材料とした。指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適正に遂行できた。

さけ科学館業務での苦情が発生しては、計画した手順に従い、適切に対応を行って下さい。

適切に行われていると評価します。

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、男女雇用機会均等法、次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金889円(令和3年10月1日発効)以上の時給を支給した。 ・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。 ・就業規則・要綱の改正を行い、札幌中央労働基準監督署に適切に届け出た。 ・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。 ・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。 ・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。 ・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。 ・年1回の定期健康診断及びストレスチェックを実施した。 ・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。 ・有期雇用契約者のうち、無期転換申込権が発生した者に対して周知し、希望の申し込みを随時受け付けた。 ・次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を公開・周知した。 ・女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」において、女性の活躍推進に関する状況等が優良な団体として「認定段階3」を受けたことを周知した。 ・安全衛生委員会を設置し、毎月1回、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、各公園の担当課長がリモートワーク等により出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、その結果を各公園・施設のマネージャーを通してスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。 ・維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。 ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励、ノー残業デーの設定など <p>▼ 当協会において、正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した結果、非正規職員1名を正規職員に転換した。</p> <p>▼ さけ科学館において、労働災害及び事故は発生しなかった。</p>	<p>さけ科学館と本部事務局との連絡調整を密にするとともに関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。</p> <p>当協会での労働災害発生ゼロを目指して、毎朝のKY活動、ヒヤリハット事例の共有、安全大会の開催(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、各公園単位で開催)、安全講習の実施等に取り組んだ。事故が発生した際には、安全衛生委員会において、原因検証と再発防止の検討を実施した。</p> <p>安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。</p> <p>2回の緊急事態宣言(5/16～7/11、8/27～9/30)及び3回のまん延防止等重点措置(5/9～5/15、6/21～8/27、1/27～3/21)適用期間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてテレワーク、オンラインによる会議や講習会の参加などを行い、班体制シフトによる人員削減及びスタッフ全員の感染を防ぎ館の運営に支障がないようにした。</p> <p>今後も労働災害及び事故が発生しないように、スタッフ全員で安全意識を高めていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1260 168 1316 201">A</td> <td data-bbox="1316 168 1372 201">B</td> <td data-bbox="1372 168 1428 201">C</td> <td data-bbox="1428 168 1460 201">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1260 212 1460 403"> <p>適切に実施されています。引き続き、スタッフの安全教育や、雇用環境の向上に努めてください。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>適切に実施されています。引き続き、スタッフの安全教育や、雇用環境の向上に努めてください。</p>			
A	B	C	D								
<p>適切に実施されています。引き続き、スタッフの安全教育や、雇用環境の向上に努めてください。</p>											

(3) 施設・設備等の維持管理業務

▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)

- ・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。
- ・さけ科学館における拾得物の取扱いは、遺失物法に基づき適正に行った。
- ・真駒内公園駐車場車止め付近にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。
- ・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。
- ・管理業務の実施に際して、当協会の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、施設内の触れる場所への消毒や入口に消毒液の設置、人が集まる状況の際の換気、マスク着用・3密回避などの励行・注意喚起の掲示、館内放送による注意喚起を実施した。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

- ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、巡回時には事前に放送をかけ、換気・アルコール消毒を行い、お客さまが安心して見学できるように努めた。また、本館玄関・トイレ・さかな館入口付近に、手の消毒を促す、人感センサー付アナウンス機器を設置した。
- ・1/6に、本館・汚水槽満水警報が発報し原因を調べた結果、真駒内川を渡った公園橋先の配管詰まりによる橋下排水管凍結と判明する。、1/11に汚水槽から公園橋手前まで配管詰まりを調査し、1/13に配管詰まりが解消された。公園橋下排水管の自動温度調節器が2台設置されているが、橋下排水管側の巻線が故障している可能性があり、次年度札幌市において調査する予定である。再度、排水管が詰まり流れなくなると、トイレ等が使用できなくなるため、凍結の可能性は低い、予防措置として、1日1回以上汚水槽ポンプを起動させ、排水管中の水を動かし、凍結防止対策を実施する。

敷地内での作業の際は、声かけや周囲に気を配り、作業車両使用時には二人一組で対応するなど、利用者への安全配慮を最優先として作業を実施できた。除雪機や草刈り機等の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、報道等で事故があった際は、その都度注意喚起した。拾得物の取扱いは、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。今後もお客さまが安心して施設を利用できるように努める。

重要な設備等については、札幌市と適切に情報共有した上で、定期点検のほか日常的な自主点検・記録により、突発的なトラブルの予防ができた。軽微な修繕等は直営または当協会他公園の協力で対応し、経費削減につなげた。今後も設備の知識を深めて経費削減、応急処置ができるように努める。配管詰まりの際は、汚水槽が満水になるとトイレが使用できなくなるため、1日3回汚水槽の水位を確認した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、巡回時は、お客さまが安心して見学できるよう、換気・アルコール消毒を徹底して行った。

A B C D

利用者の安全確保に努め、緊急時の体制を整えており、適切に管理されているものと評価します。今後もお客さまが安心して施設を利用できるように努めてください。

軽微な修繕や日常清掃等を行い経費削減に努めていること、新型コロナウイルス感染症拡大防止について適切な対策がなされていることについて評価します。今後とも、利用者の安全・安心に配慮した維持管理に努めてください。

	<p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。 ・年度の防災計画を策定し、4月に火災・地震・強風等への対応訓練、3月に融雪期の周辺状況を把握した避難・誘導の消防訓練を実施した。 	<p>火災・地震・強風への対応訓練を実施した。3月に融雪期の周辺状況を想定した消防訓練を実施した。全スタッフと状況を共有し、災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話しあった。</p> <p>台風等による強風で落ち枝・倒木等の被害について、隣接する河川敷地でも発生する可能性があるため、管理範囲外ではあるが安全確保が保てる体制をとることができた。</p>	<p>適切に実施されています。今後も、防災に備えた体制の確保に努めてください。</p>								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ さけ科学館における普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーモンスクール放流式68人(計画60人) ・サケ稚魚体験放流-回---人(計画3,000人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・知る・みる・カニさん・ザリガニさん一人(計画60人) ※中止 ・わくわく体験(エサやり・サケタッチ) 10回1,126人(計画1,900人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため9回中止 ・さかなウォッチング 3回52人(計画60人) ・公開さかな調査 103人(計画50人) ・サケとふれあうミニイベント 一人(計画1,000人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止 ・サケの採卵実習・受精体験 4回271人(計画100人) ・サーモンウォッチング・観察会 4回450人(計画250人) ・サケ皮工作 17人(計画20人) ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 120人(計画100人) 計2,207人(計画6,600人) ※5/3～7/11及び8/27～9/30は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館となり、その期間中のイベントもすべて中止となる。 ※1/27～3/21は、まん延防止等重点措置適用のため、期間中のイベントはすべて中止となる。 ※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「サケフェスタ2021」は中止とし、代替イベントとして「サケとふれあうミニイベント」を予定していたが、臨時休館のため中止となる。 	<p>R3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大型イベント「サケ稚魚体験放流」「サケとふれあうミニイベント」をも含めた5/3～7/11及び8/27～9/30のイベントが全て中止となったが、状況を丁寧に説明し、次回気持ちよく参加して頂けるように対応することができた。開催したイベントは、お客様が安心して参加できるように新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して行うことができた。</p> <p>1月に開催した札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomを使用したオンライン形式で行い、多くの市民に豊平川に遡上するサケの現状と野生サケの重要性を知ってもらうことができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、普及啓発事業が計画通りに実施できなかったことについてはやむを得ないと考えます。また、感染対策に考慮しつつ柔軟に対応していることを評価します。来年度以降も、感染状況を見極めながら普及啓発に努めていただくことを期待します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、普及啓発事業が計画通りに実施できなかったことについてはやむを得ないと考えます。また、感染対策に考慮しつつ柔軟に対応していることを評価します。来年度以降も、感染状況を見極めながら普及啓発に努めていただくことを期待します。</p>			
A	B	C	D								
<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、普及啓発事業が計画通りに実施できなかったことについてはやむを得ないと考えます。また、感染対策に考慮しつつ柔軟に対応していることを評価します。来年度以降も、感染状況を見極めながら普及啓発に努めていただくことを期待します。</p>											

▽ 生物に関する相談業務

・生物の飼育・生態等に関する質問・問合せ等は計152件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行った。

サケのほか、水辺の生き物全般にわたって様々な質問を受け、適切な回答を心掛けた。今後も関連資料や書籍等を収集し、また、水辺の生物を中心に、研修会や会議にも可能な限り出席して、分かりやすく回答ができるた。

多くの方に生物や環境への興味を持っていただくため、今後も適切で分かりやすい回答に努めてください。

▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務

・水産資源研究所等の研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。
・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。

文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。Zoom等を使用したオンラインにおいて、業務上有益な会議・研修会等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、利用者への解説に役立てることができた。

外部の研究成果等の情報を積極的に収集し、業務に係る新たな知見を得ることで利用者サービスの向上につなげているものと評価します。

- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議(4/1)
- ※メール会議において実施
- ・豊平川における河床地形の変化とサケ産卵環境の影響の報告会(5/20)
- ※オンラインにおいて実施
- ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト勉強会(5/29)
- ※オンラインにおいて実施
- ・応用生態工学会(9/24)
- ・河川学術研究会25周年記念大会(10/28～29)
- ※オンラインにおいて実施
- ・豊平川河畔林勉強会(11/1)
- ・環境DNA学会(11/21)
- ・ITプロジェクト成果報告会(12/15)

(5) 施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

令和3年度

入館者数	28,287	人
解説案内・学習対応	52 件	3,026 人
外部依頼の実習等対応	28 件	1,337 人
ボランティア活動(のべ)	94 日	113 人
図書貸出	28 件	59 冊

入館者数は、5/3～7/11及び8/27～9/30の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館、不要不急の外出の自粛等の影響により、入館者数は減少した。来て頂いたお客様に満足していただけるよう、スタッフ全員で丁寧な説明・解説を心掛けた。イベント等は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて、安心して参加できるよう実施できた。

A	B	C	D
---	---	---	---

休館期間が長く、入館者数が大幅に減少したことについてはやむを得ないものと考えます。今後も、感染症対策を徹底しつつ、できる限り新規・リピーターの利用者増加につながることを意識した情報発信、イベント実施に努めてください。

	<p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ取材の際には、新型コロナウイルス感染症拡大防止も考慮してイベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。 ・講師や実習、展示などの依頼については、新型コロナウイルス感染対策を行い、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。 	<p>市広報・マスコミ等を利用して、新型コロナウイルス感染症拡大防止も考慮し、さけ科学館のPRに努めた。また、外部依頼の実習・展示協力等は、PRにも繋がるため、可能な限り受け入れることができた。引き続き利用促進に取り組んでいく。</p>	<p>市の広報以外のマスコミやチラシ等を利用した積極的な周知を評価します。今後もさけ科学館の知名度の向上と利用促進のためPRに努めてください。</p>								
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。 ・ホームページは随時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報など最新情報の掲載に努めた。 ・メールフォームの活用 <ul style="list-style-type: none"> 公式ホームページ内のメールフォームから来る問合せに即時に対応した。 ・facebook、Twitter <ul style="list-style-type: none"> ツールの特性を生かし、コロナによる施設開放状況や利用時のお願いを都度アップし、ダイレクトメールでの質問に即時返答するなど、館の管理運営への理解を深めていただくよう努めた。 ・館ホームページのウェブアクセシビリティ研修を担当職員対象に実施した。また取組確認・評価表を、令和4年3月28日に公開した。 ・令和3年度のホームページに53,710件のアクセスがあった。 <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。</p>	<p>イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも、新型コロナウイルス感染症拡大防止も考慮して、掲載依頼するなど広報を実施し、利用者増につなげることができた。</p> <p>館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を行った。ホームページ及びSNS等では、最新の情報発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>ホームページのアクセス数が昨年度より増加していること、SNSを活用した最新情報の発信を行っていることを評価します。今後もより見やすい形で、的確な情報を利用者に伝えられるよう努めてください。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>ホームページのアクセス数が昨年度より増加していること、SNSを活用した最新情報の発信を行っていることを評価します。今後もより見やすい形で、的確な情報を利用者に伝えられるよう努めてください。</p>			
A	B	C	D								
<p>ホームページのアクセス数が昨年度より増加していること、SNSを活用した最新情報の発信を行っていることを評価します。今後もより見やすい形で、的確な情報を利用者に伝えられるよう努めてください。</p>											

2 自主事業その他

▽ 自主事業		A B C D
<ul style="list-style-type: none"> ・売店営業 ・自販機設置 ・受託業務(調査業務・技術指導の業務)6件 ・自主事業申請イベント開催数 7件(その他のイベント等は本来業務) ・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等対応 101件 	<p>調査等の受託業務は、本来業務に支障のない範囲で行い、得られた知見は教育・解説活動等に役立った。</p>	<p>適切に実施されていますが、今後も、新たな視点で、より多くの方に満足いただけるような事業を展開していただくことを期待します。</p>
<p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。 ・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ〜る」から仕入れた商品を販売した。 	<p>売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなむ小物などを販売し、好評を得られた。</p>	<p>市内企業の優先活用や福祉施策への配慮がなされていることを評価します。</p>

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A B C D
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、イベントでアンケートを実施した。		
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合満足度:94.7% (回答数19件、市要求水準70%) ・接客に対する満足度:92.9% (回答数14件、市要求水準80%) ・イベントに対する満足度:96.7% (回答数1,142件、市要求水準80%) <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、十分なアンケートを収集することができなかつたため、回答数が少なく、判定できず。 ※過去2年間の平均回収件数22件 ※通常開館時の平均回収件数350件</p>	<p>コロナ禍のなか、閉館による入館者数の減少や稚魚放流やサケフェスタなど多くのアンケートが集まる時期のイベントが中止されたためサンプル数が減少しているが、適切な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、対面によるアンケートを実施し、総合評価等についての満足度は94.7%だった。</p>	<p>満足度が高く、要求水準を上回っていることを評価します。また、「説明が勉強になった」や「楽しかった」との意見が複数見られ、スタッフが豊富な知識を持ち、親切な対応をしているものと評価します。</p>
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨大なイトウ、ヤツメウナギ、サケの稚魚(大量)、サケの産卵の流れの展示。トイレも借りましたが、きれいでした。若い男性の職員さんに色々なお話をたくさん教えていただきました。余計に楽しかったです。お忙しいところ、ありがとうございます。入場料が無料ながら、展示も面白く、職員さんにも教えていただき、非常に満足でした。また来たいと思っています。ありがとうございます。 ・千葉県より移住し、良い地に招かれ後悔無しです。また来たいと思います。 ・1年に1,2回訪問しますが少しずつリニューアルしていますね。もっと人を集めるなら思い切って全面的に改装するしかないですね。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もお客様が気持ちよく見学して頂けるように、丁寧な分かりやすい説明を心掛け、満足して頂けるように努める。 	<p>今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、お客様から貴重な意見の徴収の機会として対面によるアンケートを実施し満足度の向上に繋げることができた。</p> <p>イベント満足度は1,142件の回答に対して、非常に高い96.7%の満足度となった。今後も新しい企画を考え、既存のイベントの充実を図り、来館者・イベント参加者を飽きさせないように努力する。</p>	

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	計画	決算	差
収入	41,111	42,798	1,687
指定管理業務収入	39,661	39,754	93
指定管理費	39,661	39,661	0
利用料金	0	0	0
その他	0	93	93
自主事業収入	1,450	3,044	1,594
支出	40,849	44,395	3,546
指定管理業務支出	40,298	42,925	2,627
自主事業支出	551	1,470	919
収入-支出	262	▲ 1,597	▲ 1,859
利益還元	0	0	0
法人税等	262	55	▲ 207
純利益	0	▲ 1,652	▲ 1,652

▽ 説明

- ▼ 自主事業収入は、魚類調査や技術指導等の業務受託により、計画より1,594千円の増となった。
- ▼ 指定管理業務支出は、飼育展示及び飼育管理内容の向上や教育研究の拡充を目的とした物品購入費用や、除雪経費の増加などで、計画より2,627千円の増となった。
- ▼ 自主事業支出は、収入の増加に伴う売店商品の仕入費などで、計画より919千円の増となった。
- ▼ 利益還元については、公益法人の特質上、収益の約半分を繰り入れている。

受託業務は、札幌市内の河川におけるサケ・サクラマス生態調査をはじめ、生物環境改善・普及啓発業務など、さけ科学館職員の経験・知識を活用して対応できる業務を受けた。今後も本来業務に支障をきたさない範囲で積極的に受託し、差益を施設運営費に充当すること、業務で得られた知見を利用者に還元することにより、教育普及に役立てていく。
エサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売しており、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。

A	B	C	D
<p>感染症対策や、除雪経費の増加による支出の増加はやむを得ないと判断しますが、昨年、一昨年に引き続き、収支が赤字となっています。引き続き適切な維持管理を行いながら、収支改善に努めてください。 なお、自主事業収入が計画より大幅に増加したことについては、技術指導等を積極的に行ったことによるものであり、評価に値すると考えます。引き続き、自主事業の充実に努めていただくことを期待します。</p>			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼ 当協会の財務状況等は、令和3年度、赤字決算になる見込みはなく、運営安定化積立資産の留保金もあるため、安定経営能力に問題はない。

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ 情報公開請求はなかった。
- ▼ 当施設の管理等に係るオンブズマンの実地調査はなかった。
- ▼ 施設使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に施設を使用できない旨の文書を管理事務所に掲示した。
- ▼ 物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。

適 不適

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p><利用状況> 開館中は、新型コロナウイルス感染症拡大防止(ゴールデンウィーク特別対策)に伴い、徹底して換気やアルコール消毒を実施し、お客様が安心して見学頂けるように努めた。臨時休館中は、お客様から開館状況についての問い合わせが数件あったが、丁寧に状況を説明し、次回来館された際に気持ちよく見学ができるように心掛けて対応した。 サケ遡上シーズン中は、観察場所についての問い合わせが数多くあり、観察場所が分かりやすいよう、丁寧に説明した。 「サケの発眼卵」展示は、お客様からは発眼卵を近くで見ることができ、大変好評を得ることができた。サケ科魚類の発眼卵を「本日の卵」として展示は、サケ発眼卵よりも見ることができないサケ科魚類の発眼卵を近くで見ることができ、こちらもお客様から大変好評を得ることができた。 「サケの仔魚」展示は、お客様からは生まれたてのサケの赤ちゃんを近くで見ることができ、大変好評を得ることができた。また、サケの発眼卵も並行して展示し、ふ化予想日を積算温度から計算し、生まれる瞬間が見れやすいように工夫をした結果、何度も足を運んでくれるリピーターのお客様が見受けられた。 1/25から「サケ稚魚の群泳」展示を開始した。お客様からはたくさん群れで泳ぐサケ稚魚を近くで見ることができ、大変好評を得ることができた。採卵日・発眼日・ふ化日・エサを食べ始めた日・尾数を解説内容に盛り込み、いつ頃採卵した卵がどのくらいの期間で、稚魚になるのか分かりやすいように展示した。</p>	<p><利用について> 今後もお客さまが安心して見学できるように努め、状況を丁寧に説明し、再度開館した際に気持ちよくお越しいただけるように心掛けて対応し、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に努め、お客様が興味を引くような飼育展示を実施する。 市内のサケ遡上状況をできる限り把握することに努め、最新の情報を市民に提供できるように努力する。また、インターン実習や博物館実習は可能な限り受け入れ、次世代を担う人材を育てていきたいと考える。今後についても引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止として「北海道スタイル」に取り組みます。</p>
<p><教育普及> イベント中止の際は、早い段階での中止の告知、丁寧な説明による電話対応の結果、中止に伴う苦情等は一切なかった。「サケ稚魚体験放流」の中止に伴う苦情はなかったが、開催の問い合わせが多数あり、状況を丁寧に説明し、次年度に気持ちよく来場して頂けるように心掛けて対応した。さかなウォッチングの際は、密にならないように気をつけて実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためマスク着用で実施したが、気温が高く息苦しい時は、熱中症のことも考慮し、人との距離を取り無理をせずマスクを外して、実習に参加して頂いた。普段、川に入る機会がなく、たも網で採集をしたことのない参加者は、捕り方を学ぶことができ、後日家族でも行いたいと大変喜んでいただけた。公開さかな調査は、103名の参加者で琴似発寒川に生息する水辺の生き物だけでなく、市内の水辺の環境を普及啓発することができた。 「サケとふれあうミニイベント」の中止の際は、臨時休館延長決定と同時にHP等で中止告知をし、当日は駐車場入口に大きな看板で中止を知らせる対応をした結果、苦情等は一切なかった。10/9の「琴似発寒川サケ観察会」イベント実施の際は、189名の参加者で大変賑わったが、新型コロナウイルス感染対策を行い、3密にならないよう注意し開催した。解説の際は、市内に遡上するサケの情報・生態・観察ポイント等を説明し、河川環境に目を向けてもらえるように普及啓発した。</p>	<p><教育普及について> 引き続き新型コロナウイルス感染症対策によるイベントの中止や変更の問い合わせについては、お客様に早めの告知と丁寧な説明を行う。さかなウォッチングは、親子での川遊びの機会を提供することにより河川環境にも興味を持っていただけるよう実習を進め、新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、お客様が安心してイベントに参加できるように心掛ける。今後も、お客様が楽しく体験して、イベント開催時は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、安心して参加できるように心掛ける。 サケ観察会では市内他河川のサケ遡上情報などの話も交えて、河川環境にも目を向けてもらうきっかけとなるように努めていく。SWSP市民フォーラムは、豊平川のサケについて知らない方々にも知って頂ける良い機会でもあるため、今後も内容を充実させ、関係機関と協力して実施していく。</p>

<p>「サケの人工受精体験」の際は、ただ観察するだけでなく、参加者には卵を少しずつ取り出す採卵作業の一部を体験して頂いた。普段さわることのない卵にさわることができ、参加者から大変好評を得ることができた。12/18に実施した「サケ皮工作」では、計17名の参加者であった。参加者は、普段さわることのできないサケ皮に触れ、皮の丈夫さやサケの生態等に興味を示し、またクリスマスが近いこともあり、ツリーの飾りつけにするために親子で楽しく参加して頂くことができた。「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム2022～漁業とのつながりをさがして～」では、漁業と環境の視点からサケについての保全について知ることができ、多くの方から大変反響があった。</p>	
<p>＜施設管理＞ 臨時休館中であることが分かりやすく見やすいように、真駒内公園駐車場入口に車内からでも分かるような通常よりも大きい看板を設置し、お客様に周知した。ろ過槽のろ材漏れの際は、ろ材の入れ直しによる塩ビ管の固定により問題は解消された。直営で実施したことにより経費削減に努め、ろ材で隠れ図面上に出ていない内部構造を確認することができ、今後のろ過槽管理に繋がられる知見を得ることができた。 「かんさつ池石積補修業務」の際は、お客様の安全を第一に考え、かんさつ池を2区画に分けて補修を進めた結果、見学も特に支障なく実施でき、苦情等もなかった。「さかな館および実習館へのネットワーク配線工事」の際は、地中の配管を通す作業のためマンホールを開けて作業することから、お客様の安全確保を第一と考えて実施した。地下観察室上部入口付近で陥没箇所は、直ちにカラーコーンで囲い注意表示を出し、お客様の安全を確保した。3/25の消防訓練は、大雪による融雪時期の火災想定することにより、融雪期の避難誘導や安全確保等、融雪期ならではの知見を得ることができた。</p>	<p>＜施設管理について＞ 今後も、お客様の安全を第一と考えて、巡回時に危険な箇所を発見しは素早く対処する。また新型コロナウイルス感染症拡大防止にも努め、施設を安心して利用して頂けるように心掛ける。 施設の破損等で使用中止の場合はお客様が一目見て分かりやすい表示板などを設置します。万が一利用に影響を及ぼす修繕が発生した時は休館日に実施します。 今年度発生した公園内のカラス被害は管理区域外で発生した事象ですが同様な事象についても真駒内公園の管理事務所と連携し対応します。</p>
<p>＜飼育管理＞ 日頃からスタッフ全員で異常がないか注意をしてサケ稚魚の飼育状況を見るようにし、魚病が発生しないよう水量・残餌等に気をつけ、健全に飼育することができた。サケ科魚類選別の際は、大小が偏らないように注意をして適正な飼育密度まで飼育尾数を調整した。観察池の水温上昇対策として、ろ過水の注水量削減及び池の水位を下げ、換水率をの向上させる対策を取った結果、猛暑でも水温を1℃以上下げることができた。サクラマスは、シーズン最初の採卵となり、全てのサケ科魚類に共通することなので、スタッフ全員と採卵手順の確認をし、良好な受精卵が確保できるように指導し、サケ及びサケ科魚類の採卵前は成熟度合いを触れて確認し、適時に採卵することができた。サケ発眼卵に耳石温度標識をする際は、耳石にノイズが現れないように振動に気をつけ、丁寧に実施するようにスタッフ全員に周知して行った。サケの受精卵は、こまめに成育状況を見定め、積算温度及び目視での状況で総合的に判断し、適時に浮上させるようにした。配合飼料を食べることを覚えさせる餌付時は、残餌が多く出るため、頻繁に掃除を実施するようにし、魚病が出ないよう気をつけて飼育するように努めた。また、給餌の際は、全体に餌がいきわたるように注意をして与えるようにした。</p>	<p>＜飼育管理について＞ 今後もサケ稚魚飼育管理の際は健全な飼育管理に努め、魚病を出さないようにスタッフ全員で様子を観察し、お客様が楽しんでいただけるような飼育展示を実施していく。また展示生物が良好な環境で飼育できるよう、適宜水槽掃除及び飼育密度の調整を行い、健全な飼育に努める。サケ科以外の淡水魚は、多くの人数が川に入るさかなウォッチングの際に普段採集できない種類がでることが多いため、参加者の協力も得ながら、展示魚の充実を図っていきたいと考える。採卵の際は、サケ・サケ科魚類の採卵が適時にできるように注意をし、健全な受精卵を收容するように努めていく。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>総合的に良好な管理運営がなされています。また、利用者からの高い満足度を維持していることは、スタッフの丁寧な接客・豊富な専門知識を十分活用した運営によるものと評価します。また、コロナウイルス感染症対応も的確に行われていました。</p> <p>感染症の動向に注視しつつ、今後も環境教育の場として、幅広い利用者層に親しまれる施設を目指し、より一層の情報発信や企画展等を含む新規事業の検討に努めてください。</p>	<p>引き続き、各施設の点検・修繕を実施しながら適切な維持管理を行うとともに、利用者の安全確保、事故防止についての対策を徹底してください。</p>